会　　議　　録

会議名 （審議会等名）		平成３０年度第１回相模原市立図書館協議会		
事務局 （担当課）		相模原市立図書館　電話：０４２－７５４－３６０４（直通）		
開催日時		平成３０年７月２７日（金）午後２時３０分～午後４時		
開催場所		相模原市立図書館　２階　中集会室		
出席者	委　員	７人（別紙のとおり）		
	その他	３人（生涯学習課担当課長、同主査２人）		
	事務局	９人（図書館長、相模大野図書館長、橋本図書館長、他６人）		
公開の可否		■可　□不可　□一部不可	傍聴者数	０人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		１　議　題 （１）平成２９年度図書館事業報告及び平成３０年度予算について （２）相模原市図書館基本計画及び子ども読書活動推進計画に基づく取組の現状について ２　その他		

審　議　経　過

議題ごとに事務局等から資料に基づき説明をし、質疑応答を行った。その主な内容は次のとおり。（○は委員の発言、●は事務局等の発言）

１　議　題

（１）平成２９年度図書館事業報告及び平成３０年度予算について

○　学校連携事業については、直接学校とやりとりをしているのか。それとも、教育センター等の機関と連携をしているのか。どういった連携体制を取っているのか伺いたい。

●　教育センター等の機関を通すのではなく、それぞれの学校と直接やりとりをしている。

○　出向サービスについては、学校側からのリクエストに対して、個別に対応をしているのか。

●　そのとおり。

○　市立図書館と橋本図書館で実施している作の口小学校の出向サービスは、昨年度も実施していたと記憶しているが、作の口小学校だけでなく、他の学校にも図書館側から働きかけをするなどして活動を広げないのか。

●　作の口小学校は毎年依頼があるため実施をしている。学校側への働きかけとしては、教員や学校図書室の司書が行っている研修会などに参加し、周知を図っている。また、平成２８年度に相模原中央支援学校からの依頼により布絵本の読み聞かせを実施したところ、それ以降は出向サービスではなく、学校が団体利用で資料を利用している。このように、出向サービスは図書館を利用するきっかけ作りとして実施していきたいと考えている。

○　学校で本の読み聞かせを行うと、普段図書館へ行かない子どもや、家に本が一冊もない子どもにも本を届けることができるというメリットがある。学校にも読み聞かせを行うおはなしボランティアやPTAの方がいるので、選書等のアドバイスを図書館が行うなど、連携をしてもらいたい。

○　読み聞かせボランティアに対する勉強会や交流会を実施しているが、ボランティアをしている方は仕事をしている人が多く、勉強会に参加できない方も多いため、資料などを情報共有できると良い。

○　学校支援図書セットはとても良い事業だが、学校側から考えると、学年約２００人いる中学校では、同じテーマの本がたくさん必要になってしまう。１セット借りてみんなで使うのはなかなか難しく、利用に繋がらないのではないかと感じた。

○　学校支援、連携については、事業を実施する中で課題解決に向けた検討を今後もしてもらいたい。

○　公民館図書室の登録者数が思っていたより少なかったが、公民館図書室の利用について図書館はどのように分析しているのか。また、公民館利用者からは、本の入れ替えがないなどの声があるが、その点について意見を伺いたい。

●　市全体の貸出冊数は減少しているが、公民館図書室の貸出冊数については現状を維持していると言え、身近な図書室を利用している人はある程度いると考えている。

●　並んでいる本の新鮮度については、公民館図書室のみでなく、図書館全体の課題として認識している。新しい本は購入しているが、利用者のニーズに追いついていないのが現状である。

○　公民館図書室は、読みたい本があるから来るというより、なんとなく来て、並んでいる本から読んでみたい本を見つけるという人がほとんどである。来たときに新しい本があると、また次も来てみようというきっかけになる。公民館図書室にも、学校支援図書セットのような形で、新しい風が入ってくると良いのではないか。

○　登録者の年齢構成と、市民人口の年齢構成を比較できる資料があると良い。また、２年以上利用していない人などが含まれていると思うが、現在利用している人の実数があると良い。利用していない年齢層を把握することにより、目的と手段を考えることができるのではないか。

●　本日資料はないが、市民人口の年齢構成との比較、分析は今後していきたい。

○　図書館だけが少子高齢化対策をするわけではないが、公的施設として常に人口の年齢構成を気にかけてもらいたい。

○　橋本図書館の１９～２９歳の登録者数が他館に比べて多いが、どのような分析をしているのか。

●　橋本図書館は立地が良く、京王線と横浜線、相模線が通っており、市外登録者が市内で最も多い館となっている。例えば、市立図書館の八王子市民の登録者数は約２６０人であるが、橋本図書館は約７，５００人、町田市民の登録者数は市立図書館が約３，５００人、対して橋本図書館は約８，３００人となっている。その中では、通勤通学での利用者が多く、その結果が１９～２９歳の登録者数に繋がっていると推測している。

○　市民１人あたりの図書の貸出冊数目標値が平成３１年度５．３冊となっているが、この目標に向けての予算的処置はあるのか。

●　３１年度予算はこれから予算要求が始まるが､増額を求める方向で考えている。５．３という数字はなかなか厳しいものではあるが、近づけるような努力はしていきたい。なお、参考として政令市の市民一人あたりの貸出冊数を調査したところ、減少傾向にある市が多数である。

○　政令市のように人口が多いほど、個別の貸出冊数を上げるのは難しい。人口が

２０～３０万人規模であればきめ細かいサービスを提供できるというのが図書館界の一般論ではある。

（２）相模原市図書館基本計画及び子ども読書活動推進計画に基づく取組の現状について

○　子どもが中学校や高校からもらってくる「図書だより」というのを見ると、学校の図書委員の生徒が作成しているため、子どもたちが興味のある本が載っていたりする。そういったものを入手して活用してはどうか。また、子どもに図書館を利用しないのかと聞くと、二週間では読みきれないため、古本屋等で購入すると言い、そういった中高生が多数で、図書館へ足を運ぶのは一部の生徒なのが現状だと感じた。

○　図書館だけで子ども読書活動の推進をするのは無理な話であり、簡単なことではないが、上手く他課とも連携していかなくてはいけない。

○　資料２（２）第２次子ども読書活動推進計画の今後に向けてであるが、中高生が本を読むきっかけの第一位が「友達から薦められた」であるという資料を見たことがある。何年か前から高校生の間でビブリオバトルの全国大会が開かれており、本市でも徐々に浸透させることができれば、それも友達から薦められた本になるので、読んでもらえるのではないか。

○　資料２（２）第２次子ども読書活動推進計画のその他関係機関における取組の中にある、４か月児健康診査受診親子に対する絵本の読み聞かせの充実について、この取組にボランティアとして参加しているが、配布絵本の選定はどのように行っているのか。

●　ブックスタート事業の本の選定はこども家庭課が行った。セカンドブック事業については、図書館３館もワーキングメンバーとなっており、図書館側からも提案を行った。配布する３冊の絵本はこども家庭課が最終的に決定をした。

２　その他

（１）淵野辺駅南口周辺公共施設再整備事業について

●　平成２９年１２月７日から平成３０年１月３１日まで実施していた、「淵野辺駅南口周辺公共施設再整備・地域活性化基本計画（案）」に関するパブリックコメント手続の実施結果について、資料３のとおり報告する。

（２）図書館事業評価書について

●　平成２６～２８年度の事業評価を評価書としてまとめ、６月の教育委員会で報告し、６月２２日に図書館ホームページで公表をした。

（３）セカンドブック事業について

●　２歳６か月児を対象としたこども家庭課の新規事業で、子ども読書活動推進計画に記載している親子コミュニケーション事業を拡充したもの。健康診査の受診券送付時に引換券を同封し、図書館や公民館図書室で絵本に引き換えることとなっている。

（４）事業報告及び館報発行報告（平成３０年２月～６月末）

●　資料５については資料配布のみとさせていただく。

以　　上

相模原市立図書館協議会委員出欠席名簿

	役　　職	氏　　名	所　属　等	出欠席
1	会　　長	鈴　木　良　雄	専門図書館協議会事務局	出　席
2	副　会　長	高　柳　眞木子	みらい子育てネットさがみはら連絡協議会	出　席
3	委　　員	金　井　秀　夫	相模原市立中学校長会	出　席
4	〃	大　西　輝　佳	相模原市立小学校長会	欠　席
5	〃	藤　嶋　直　司	相模原市公民館連絡協議会	出　席
6	〃	大　橋　千　景	相模原市社会教育委員会議	出　席
7	〃	古　田　政　子	子育て親育ち応援団with.cfc	欠　席
8	〃	村　上　　賢	麻布大学	欠　席
9	〃	齋　藤　祐　子	公募	出　席
10	〃	渡　邊　健　一	公募	出　席